

高齢者ガイドブックの作成を

青海俊伯 議員

質問 団塊世代の大量退職時代を迎え、2007年問題は「団塊世代の人的資源活用の元年」にもなる。サービスの担い手でもある方々が、地域力として経験、能力を発揮できるように、行政の縦割りの情報を1冊にまとめ、社会貢献メニューとして提供できるようなガイドブックを作成していただきたいが、市の考えは。

市長 現在、輝き市民サポートセンターでボランティアにかかわる情報提供をしているが、高齢者に特定

していないので、そういったガイドブック作成も必要と思うので、十分今後考慮していきたい。



▲輝き市民サポートセンターでのパソコン教室

生活路の安全対策 その具体策は

乙津豊彦 議員

質問 市民が生活に使用するための生活路で、高齢者や障害者のバリアとなっている項目は何か、また、それらのバリアを取り除くための対策と、具体的な内容を伺いたい。

市長 生活路のバリアとなっているものは、歩車道の段差、歩道内の段差、標識等の設置、雨水処理施設などであり、歩道の拡幅、歩道内の平坦性の確保、歩道部の側溝改修などを行うことにより歩行者や車いすが安全に通行できるような整備を考

えており、さらに、市内には4メートル未満の狭い道路も多いことから、整備していきたい。



▲バリアフリー化されたやなぎ通り

駐車場整備に支援を

高橋章夫 議員

質問 最近、16号線沿い商店街は若者向けの店や、近隣ナンバーの車が多く見受けられるが、ウィンドーショッピングも楽しまずに、特定の店を利用するだけで帰ってしまうのが多いのは、駐車場がないためではないか。地元商店街はこれを受け駐車場整備を計画していると聞かすが、どのような支援をするのか伺いたい。

市長 3月下旬に地元商店街から、16号線から多摩橋通り交差点に入ったところの民有地を借り受け駐車場

にしたいとの相談があり、都の補助金「新・元気を出せ!商店街事業」の補助申請を行った。



▲駐車場整備予定地

熊川分水 保存・保全に向けた対応は

清水義朋 議員

質問 明治23年完成の熊川分水は、今でも市民の憩いの場所として親しまれているが、石積みの崩壊しているところなどもあり、今後の保存、保全に向けた対応を伺いたい。

市長 平成7年に熊川分水対策会議を発足し、保存に向けてのモデル地区として二箇所を選定して整備を進めており、さらに「熊川分水に親しむ会」の方々にまちづくり景観条例に基づく認定団体としての熊川分水の保存や、次代に引き継ぐリーダ

ー育成も含めての仕組みづくりをお願いしており、市ではソフト面や技術的援助をしていきたい。



▲熊川神社付近の熊川分水

牛浜駅バリアフリー化 その現状は

羽場 茂 議員

質問 牛浜駅を利用している車いすの息子さんをお持ちの方の話を聞いたが、毎日の通勤で、駅に上げ下げをお願いしているが心苦しい。また、高齢の方などを見ていると、階段を登るのに3分かかっているが、牛浜駅のバリアフリー化への現状と今後の考え方について伺いたい。

市長 JRが市の要望で行った基本調査では駅舎全体を新設する計画で、市に負担をかなり求めてくると思うが、議会と相談をしていきたい。再三、

早期実施の要望をしているが、財政的問題から20年度の拝島駅自由通路事業終了後に進めていきたい。



▲昇降が大変な牛浜駅の階段

牛浜駅のバリアフリー化 早期実現の対応は

末次和夫 議員

質問 JRでは牛浜駅バリアフリー化のための基本調査を実施しているが、工事決定までのプロセスと工事完成に向けたタイムスケジュールを伺いたい。

市長 JRの報告書に基づき協議を重ね、牛浜駅舎の改修計画案や工事負担額を精査していくが、多額の市の負担となることが予想されるので、国庫補助の活用も含めて進めていくこととし、実施時期についてはJRでは優先順位もあり、拝島駅自由通

路完成後となるが、その準備に着手できるよう計画を進めていきたいと思う。



▲老朽化が目立つ牛浜駅

公園緑化 その考え方は

大野悦子 議員

質問 防犯のためや萌芽更新でいろいろな樹木が伐採されている公園、また夏、日陰がほしい公園、自然緑地そのままの公園等、市内にはさまざまな公園があるが、その管理、整備の考え方について伺いたい。

市長 都市計画緑地に指定した熊川緑地、玉川上水緑地等は自然を残しつつ緑の保全を基本に、福生萌芽会の協力もいただき管理し、町会周辺の街区公園は巨木化した樹木を安全上伐採し、木陰も考慮し緑地管理

しているが、本年度、地域の方も含む庁内プロジェクトを設置し、今後の公園整備計画を策定していきたい。



▲原ヶ谷戸どんぐり公園

ホームページのバナー広告トップページの価値は

杉山行男 議員

質問 ホームページのトップページはお金では換算できないほどの価値があると思うが、バナー広告を入れるようになった経緯は。バナー広告のスペースは市民が情報にアクセスする権利を奪ってはいないかどうか考えを伺いたい。

市長 トップページの重要さは十分認識しており、今後とも市民情報の共有を図り、市政への参加、協働につなげてまいりたい。バナー広告を導入した経緯は、新たな財源につ

いて検討を進め、私の便利帳や市内マップへの広告掲載に続きホームページにも導入したものである。



▲福生のホームページ